2025 年度　加茂地区生物多様性調査について（報告）

2026/3/31

美濃加茂自然史研究会

2018 年度に加茂地区生物多様性調査データベースの取りまとめが行われ，その成果報告としての「守りたい加茂の豊かな自然」が出版された. その後の追加調査の結果について, 2019 年から 2022 年までの 4 年間の追加データの概要は, 美濃加茂市民ミュージアム紀要第 22 集に「2019-2022 年の加茂地区生物多様性調査報告」としてされている.

しかし，新規の動植物の記録はまだまだ発見されることから，2023 年以降も継続調査は行われ，2025 年には，さらに現地調査のデータ 541 件が追加され，また一部のデータは見直しによって削除されたことで，加茂地区生物多様性調査のデータベースの登録件数は合計 32956 件となった．2025 年調査によって新たに発見・同定された種について，以下に記す.

●種子植物の加茂地区追加記録種

2024 年の調査によって, 加茂地区で新たに 10 種の外来植物と 8 種の在来植物の記録が得られた.

＜2025 年初記録の外来種＞

オモダカ科　ミズヒナゲシ
キク科　ペラペラヨメナ
キク科　コウリンタンポポ
キク科　ムラサキトキンソウ
トウダイグサ科　アレチニシキソウ
ナデシコ科　シロバナマンテマ
マメ科　ギンネム sp.
オオバコ科　アメリカアワゴケ
スミレ科　アメリカスミレサイシン
ドクダミ科　ハンゲショウ（国内外来）

＜2025 年初記録の在来種＞

ウリ科　ゴキズル
オオバコ科　アワゴケ
キンポウゲ科　アズマレイジンソウ
サトイモ科　コウライテンナンショウ
スミレ科　コミヤマスミレ
タデ科　コミゾソバ
ホシクサ科　シロイヌノヒゲ

ユキノシタ科　ボタンネコノメソウ

●APG 対応加茂地区植物目録の更新

新たに記録された植物を加え，加茂地区の植物目録を更新した．一部の種の同定の見直しが行われ，種子植物は 151 科 1531 種となった．

●甲殻類の mtDNA 解析による同定

近年，全国的に分布を拡大しているカワリヌマエビ属のエビについて，形態的には種の識別が困難であり，岐阜県内では在来のミナミヌマエビの可能性があったことから，加茂地域に分布するものについては，暫定的にミナミヌマエビ *Neocaridina denticulata* としてきた．2025 年に，濃尾平野で広く採集したカワリヌマエビ属の mtDNA の解析を行い，加茂地域においても富加町の川浦川 4 個体，坂祝町の迫間川 4 個体の解析を行ったところ，いずれの河川においても中国原産の外来種であるシナヌマエビ *N. davidi* と在来の可能性のあるミナミヌマエビ *N. denticulata* の近畿系統が分布することが確認された．ミナミヌマエビ近畿系統については，在来の可能性もあるが，本当に加茂地域で在来であったかは，現状においても不明である．

●交雑オオサンショウウオの確認

2023 年に飛騨川水系の菅田川（下呂市）において，特別天然記念物のオオサンショウウオと，外来種であるチュウゴクオオサンショウウオの交雑個体が多数生息することが確認された．その後，各務原市の木曽川でも交雑個体が 1 個体発見されており，加茂地域においても交雑個体が発見されることが危惧されていた．そこで，2025 年 3 月 25 日に白川町坂ノ東の飛騨川本流（名倉ダム下流）であなごカゴによる調査を行ったところ，約 1 mの交雑オオサンショウウオと思われる個体が捕獲された．岐阜大学においてマイクロサテライト分析を行った結果，交雑オオサンショウウオであることが確認され，安楽殺後に標本として岐阜県博物館に登録，保管された．